

編集

後記

我が歴史研究会も、新学期と共に十二期生を迎えつゝ、今年度歴研の活動方針の一端としてその荷を負うゝふびとゝも、新編集委員により、最近特に安保問題の騒然たる中で、我が歴研も近年画期的な総合調査の実施により、とみにその研究内容もりこんで、今年度の壁研活動の端を発しこの方、剛年より一ヶ月も早く本号が発刊出来たことは、この上もない喜びであり、歴研の繁栄を示すものと言えよう。

学外では、フィールドワークによる会員相互の連結を、学内では月一回の研究発表会と、その研究内容の豊富さにより今回は新年度の一回の発刊にもかゝわらず如斯重厚なるふびとゝが14号と、皆さんの御手元におとゞけ出来るのも、昨年来歴研が、アカデミックな姿に降々にでも進行している結果ではなからうか。

しかし、我々はここでの現状にあまえてはならない。安保の嵐が吹きまくる中で、我々会員は前乎たる自己の信念をもち、現実を正しく理解し、批判していかなければならない。更にいつぞうの自覚によつて、とかく一人の先導者の私俗によつて切りまわされ易いこの現実を、正しい判断と批判とを指つて追まねばならぬ。

以上、我々編集委員は心から歴研の繁栄を期待し、ここに本号へ御寄稿下さった諸氏に感謝の意を表すと共に、今後共に今回のふびと、14号をよく吟味して、更に限りなき前進

を、つぎけようではないか。

(歴史研究会機関誌編集委員)